

呼気ガス（NO）分析検査

概要

呼気中に含まれる一酸化窒素（NO）の濃度を測定する検査です。

検査方法

初めにマウスピースをくわえずに息を吐き出し、マウスピースをくわえて口で大きく息を吸っていただきます。その後、マウスピースをくわえたまま一定の速さで 10 秒ほど息を吐いていただきます。

検査で分かること

一酸化窒素（NO）は喘息やアレルギーなどで気道に炎症が起きると増加します。そのため、呼気中の NO 濃度を測定することで、気道に炎症があるかどうか、またその程度の評価に用いられています。

呼吸機能（スパイロメトリー）検査では喘息と慢性閉塞性肺疾患（COPD）の鑑別することは難しいですが、この検査により両者の鑑別が可能と言われています。しかし、測定値が増加していても必ずしも喘息とは限りません。

注意事項

- ・ 検査結果に影響があるため、検査当日の喫煙はお控えください。

所要時間

約 5～10 分程度

よくある質問

Q：上手くできないのですが、私だけですか？

A：検査手順が多く、始めて検査を受けられる際は少し難しく感じるかもしれません。担当技師が声掛けをしながら検査を行いますので、声に合わせてできる範囲で行っていただければ問題ありません。

Q：この検査と呼吸機能（スパイロメトリー）検査、両方を受ける必要はあるのですか？

A：呼吸機能（スパイロメトリー）検査だけでは気道の炎症を詳細に評価することができません。両方の検査を受けていただくことで、より多角的に評価を行うことができます。

Q：10 秒間息を吐き続けることが難しいのですが、この検査はできますか？

A：10 秒間息を吐き続けるのではなく、6 秒間ほどで測定ができる検査モードもあります。検査の際に必要な応じて担当技師が検査モードを変更しますので、できる範囲で検査を行っていただければ問題ありません。

Q：入れ歯をしています、問題ないですか？

A：問題ありません。マウスピースがくわえにくいなどがある場合には外していただいても構いません。

